



佐藤 公亮さん  
Sato Kosuke

〔下横田区〕

さとう こうすけ / 県立熊本工業高校野球部マネージャー。昨年9月から裏方としてチームづくりに尽力。第103回全国高等学校野球選手権大会では同校の記録員としてベンチ入り。

## 絆を深めるチームづくりで つかんだ甲子園への夢切符

「コロナ禍で甲子園の夢が断たれた先輩たちの想いとともに、甲子園の土を踏むことができてほっとしています」と話すのは、甲子園出場を果たした熊本工業高校野球部でマネージャーを務めた佐藤公

亮さん（同高3年・下横田区）。コロナ禍で2年ぶりの開催となった今年の夏の大会。記録員として甲子園のベンチから選手を鼓舞し続けた佐藤さんがマネージャーになったのは昨年9月。3年生が引退し

た後、監督に声を掛けられたのがきっかけ。裏方として新しいチームづくりに貢献できることに魅力を感じたという。部員約90人の野球部の練習準備や部員一人一人の健康状態の把握、監督からの連絡伝達、遠征費用の取りまとめなど、その仕事は多岐にわたる。「部員全員と会話するうちに野球の考え方が少しずつ違うことも分かりました。強

いチームに必要な一体感を高めるために、キャプテンと相談しながら部員たちと対話を重ねたり、チームミーティングを開いて意見交換を促したりしました」と佐藤さん。

地道な取り組みが実を結んだのは県大会準々決勝。1点を追いかける場面で、ベンチの選手もスタンドの部員たちも全員が前を向く光景を目にしたとき、チームのまとまりを強く感じたという。

「マネージャーとしての1年間は、たくさんの方の支えを感じた毎日でした。コロナ禍でも野球ができる環境づくりをサポートしてくれる家族や先生たち、地域の皆さんの善意に触れる機会も多く、裏方になってはじめて知った支援もありました」

現在、就職活動の準備を進める佐藤さんは「社会の中でも、チームで取り組む場面は少なくないと思います。チームづくりを支える中で学んだ絆を深める大切さと難しさを今後の人生に活かしていきたい」と新たな目標に向かってひたむきに歩み続ける。